



〇〇にハマって考えてみた

吉田病院

専攻医 原澤 俊也

大阪の西淀病院プログラムにて初期研修を修了し、1年間のTransitional year 研修を経て、吉田病院 精神科研修プログラムに入りました。このニュースが出ている時には、研修3年目となっています。

精神科を選んだ理由は、色々あり過ぎて、ここには書ききれないのですが、一番の理由は、「目の前の人をしっかりと見つめ、その困りごとへの支援をしたい」でした。そして、吉田病院の精神科を選んだ理由は、まさにそこに安心してハマることができると感じたからです。

医学生時代、吉田病院で初めて実習を行った際、「患者さんの家に掃除に行くよ」と言われて連れていかれました。その患者さんは、自宅での生活が破綻してしまったために、容易に強い混乱状態となって、入退院を頻回に繰り返していました。事前に、「靴下とか、あとは着替えを持ってきてくださいね」とアナウンスがあったので、それなりの覚悟はしていました、、、が。そこには、大量のゴミの死骸や、虫卵の抜け殻や、イイ感じに醸されて芳香を放つ食材が散乱してました。Gについては、一生分を見たように思います。その時は、『これが何の役に立つんだ』と思いながら、黙々と掃除をしました。

その1年後に、また吉田病院で実習をしたのですが、なんのご縁か、その掃除をしたお家への訪問看護に同行しました。お家へ訪問すると、そこには、穏やかな笑顔でゆっくりと過ごしている本人がいました。自宅の片付け以後は、入院することなく自宅生活ができており、1人で海外旅行にも行ったという話も聞きました。ゴミは、定期的にヘルパーさんが捨てることで、たまることは無くなりました。こういった生活環境の整備で、ここまで症状が改善するのかと、強い衝撃を覚えた体験でした。

彼には発達特性があり、ゴミの分別が大の不得意でした。ゴミの分別収集が始まるまでは、特に自宅が荒れることなく過

ごせていました。分別収集が始まると、ゴミ出しをしても回収してもらえなくなり、仕方なく自宅へと持ち帰ります。彼なりに頑張るのですが、それでもやはり分別ができません。次第に、ゴミを出すことを諦めるようになり、自宅内はみるみるうちにゴミで溢れ始めました。そして、生活できる環境では無くなり、精神的不調を来すようになったのでした。そこに、一斉大掃除と定期的な片付けという適切な支援を入れることは、まさしく、治療というべきものです。

ゴミ屋敷と聞くと、『迷惑な住民』というイメージがどうしても先行してしまいます。でも実は、その本人がまさに困っていて、その結果としてゴミ屋敷になっていたわけです。精神科を始めてから、この様な例に、本当に沢山出会っています。『困った人』ではなく、『困っている人』と捉えることは、支援を始めることの第一歩だと、日々実感しています。困り事をもった人への支援は、医師独りで到底出来るものではなく、多くの職種の人々がいてこそ可能です。むしろ、医師よりも、他職種の方が主体です。多くの人々と共に、当事者が必要とする支援を、日々悩みながら、失敗もしながら模索しています。

そして中には、困り事が当人だけに留まらず、家族や周辺住人まで巻き込み、さらには社会制度の溝にも陥っているという、まさに『泥沼』という状態になっている人もいます。そういった方の支援は、何が正解なのかなんて全く分かりません。関わっているうちに、泥沼にハマり込んでいた、なんてのは日常茶飯事です。でも、不思議とそれが、最近では楽しいと思ったりもします。まあ、辛い大変なんですけどね。

民医連の精神科だからこそ、その人その人を大事にする、という研修にどっぷりとハマれるのではないかと思います。そして、指導医や他職種が、安全にハマっていくことを支援してくれます。

まとまらない文章になってしまいましたが、少しでも、民医連での精神科研修の魅力が伝わったら幸いです。

興味のある方は是非一度、民医連の精神科研修を見学にしてください。

精神科研修ができる病院紹介

林道倫精神科神経科病院

メンタルヘルス対策に力を入れています。

林病院では、2003年より「岡山EAPカウンセリングルーム」を開設し、メンタルヘルスに関する取り組みを始めています。EAPとは employee assistance program の略で、企業と契約し、企業で働く社員と家族のメンタルヘルスに関する相談、2015年度から始まったストレスチェック、企業でのメンタルヘルスに関しての講演や講習会などを行っています。

産業医資格を持った医師も数人おり、メンタルヘルスに関しては様々なことが学べる環境です。



菊陽病院

精神科スーパー救急取得(2010年)、医療観察通院指定(2005年)と重症者の社会復帰支援に力を入れています。

また依存症治療に特化した病棟があるなど、アルコールをはじめ、近年はギャンブル・薬物など様々な依存症の治療に取り組んでおり全国から相談が寄せられています。

当院は急性期や依存症患者さんの退院までの様々な過程、多職種協働による治療が学べます。

藤代健生病院

平均外来数は、青森県内の精神科外来患者数の約2割にあたる約160名となっており、北東北地域の精神科医療の中核病院として中心的な役割を果たしています。

また、急性期治療病棟を中心に入院精神科医療全般を学ぶことができます。生協の病院でもあるため、病院を支えている組合員の地域活動を通じて地域精神医療を直に学ぶことが可能です。

プログラムは精神科単科病院のほか、総合病院の精神科、併設された精神科クリニックで構成されており、所在地も弘前市、青森市、北海道札幌市、東京都渋谷区と多岐にわたります。そのため、対応する疾患の傾向、重症度、年齢層など患者側の要素のほか、各施設の持つ機能、伝統、立地条件なども異なっているため、最終的にはいずれの場でも柔軟に最適な診療を行えるだけの総合的な能力を身に付けることができます。

みさと協立病院

埼玉県三郷市北部にあって、これまで慢性疾患・精神疾患・障がい者の地域生活への復帰を行ってきています。内科領域では、回復期の医療とリハビリテーションを、他病院や在宅医療との連携を密にして切れ目なく進めています。精神科領域では、2018年度にて入院医療を休止しましたが、生活臨床の継承・発展を目指し、また地域生活支援を中心とした実践を重視し、多職種の専門的知識と技能が発揮できるチーム医療とリエゾン診療をすすめています。

吉田病院

奈良県初の精神病院として1928年に創設され、時代を先取りして「人権尊重・開放化推進・社会復帰活動・外来地域重視の精神医療」を実践してきました。現在は精神科スーパー救急病棟から認知症病棟、99床の一般病棟(内科、外科、眼科)も併設しています。奈良県有数の外来患者数と、デイケア・訪問看護ステーション・精神障害福祉事業所群を有しており、急性期から社会復帰、地域生活支援までトータルにサポートすることができます。

精神科研修病院概要・問い合わせ先



津軽保健生活協同組合 藤代健生病院

診療科目…精神科・神経科・内科・リハビリテーション科・放射線科

病床数…248床(実稼働225床)(精神科急性期治療病棟・精神科一般病棟・認知症治療病棟)

アクセス…〒036-8373 青森県弘前市藤代2-12-1 研修・実習・見学のお問い合わせ…0172-36-5181 <http://www.fujisiro-hp.info/>



医療法人財団東京勤労者医療会 みさと協立病院

診療科目…内科・精神科・リハビリテーション科・人工透析(国立国府台病院でのみさと協立病院重点プログラム)

アクセス…〒341-0016 埼玉県三郷市田中新田273-1

研修・実習・見学のお問い合わせ…048-959-1811 <http://www.tokyo-kinikai.com/misato/m02/01.html>



社会医療法人平和会 吉田病院

診療科目…内科・外科・整形外科・婦人科・泌尿器科・循環器科・呼吸器科・消化器科・精神科・神経科・放射線科・眼科・肛門科・リハビリテーション科

病床数…312床(精神科213床/一般科99床)

アクセス…〒631-0818 奈良県奈良市西大寺赤田町1-7-1 研修・実習・見学のお問い合わせ…0742-45-4601 <http://heiwakai.or.jp/>



公益財団法人林精神医学研究所 林道倫精神科神経科病院

診療科目…精神科・神経科・内科・心療内科・歯科

病床数…278床(精神科急性期治療病棟・精神療養病棟・精神科一般病棟)

アクセス…〒703-8520 岡山市中区浜472番地 研修・実習・見学のお問い合わせ…086-272-3740 <http://www.hayashi-dorin.or.jp/>



社会医療法人芳和会 菊陽病院

診療科目…精神科・神経科・内科・歯科 病床数…315床(精神科救急・精神科急性期・精神療養・精神科一般病棟)(応急指定・臨床研修病院)

アクセス…〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町大字原水5587 研修・実習・見学のお問い合わせ…096-232-3171 <http://www.kikuyouhp.jp/>

[日本専門医機構認定施設、精神保健指定医取得可能]